

# 平成 27 年度水産研究成果情報

課題名：アサリ漁場復活に向けた取組

## [背景・ねらい]

近年、アサリ資源が低迷している中、太良町地先の多良川及び糸岐川河口域漁場において、平成 27 年 6 月に実施した調査で一定量の稚貝の生息が確認できたため、定期的に生息状況調査を行った。

また、食害防止のために漁場の稚貝の一部を袋網に収納して保護する取組や、生息密度の高い場所を被覆網で覆う取組を行い、各取組の効果を把握した。

## [成果]

- ・生息状況調査の結果、6月の調査で確認された稚貝については、夏季に加え、冬季にも生息密度の低下がみられた。ただし、平成 28 年 3 月の時点でも漁獲可能な生息量を維持していた(図 1)。
- ・袋網に収納した稚貝の残存率は、していないものに比べ糸岐で約 27 倍、多良で約 33 倍、被覆網では糸岐で約 11 倍、多良で約 8 倍となり、稚貝の袋網への収納や被覆網を設置することでアサリ稚貝の残存率を高めることができると考えられた。

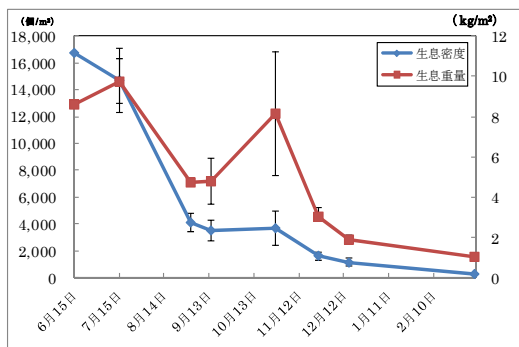


図 1 糸岐川河口域のアサリの生息密度及び生息重量の推移

## [課題・問題点]

- ・生息密度の低下要因として夏季は、エイ等による食害や波浪による散逸が、冬季は、波浪による散逸が考えられたが、特定が困難であった。

## [今後の対応]

- ・被覆網設置区と対照区の比較により、エイ類の食害や波浪による散逸の影響について検討する。

## [その他]

研究期間：平成 27 年～

研究担当者：資源研究担当 神崎 博幸、佃政則、普及担当 津城啓子